

あなたは「逃げる」のですか、それとも「挑む」のですか。

校長 西村 伸二

誰かがこんなことを言っていました。「兆し」(きざし) (きっかけ) から走り去ろうとすればそれは、「逃」げることにほかならず、逃げずに手探りで「兆し」を探ることこそが「挑」むことなのだ。

懸命に努力してもできないこともあります。しかし、『為せば成る』かもしれないと信じてやってみることが大切なのではないでしょうか。たとえ失敗しても、ほとんどの失敗は「未来への+ (プラス)」にできるはずです。一番の失敗は何もしないことなのですから。

言葉には、言霊 (ことだま) といって大変大きな力が宿っているとされています。「+ (プラス)」の言葉、ポジティブな言葉が人をよい方向へと導き、「- (マイナス)」の言葉、ネガティブな言葉は人を悪い方向へと導きます。弱音を「吐く」人は、プラスの言葉だけでなくマイナス言葉を言う人のことです。マイナス「-」を消してプラス「+」の言葉を「口」にしましょう。そうすればきっと思いが「叶う」のではないのでしょうか。

先行き不透明なこれからの時代を自分の力で切り開いていくためには、過去の延長線上でものを考えるのではなく、新たな状況を自ら考えて理解し、問題を解決していかうとする力が求められます。自ら課題を設定し、その課題の解決に向けてどう努力するか、中には努力をしても解決できない課題もあるかもしれません。それでもめげずに努力し続けることは並大抵のことではありません。どうか生涯にわたって、学ぶ心を忘れず、絶えず知性を磨き、社会のために力を尽くす、そんな人に成ってください。

さあ、一緒に第一歩を踏み出しましょう。

